平成 24 年度 初芝立命館中学校･高等学校 学校評価

はじめに

近年の少子化や教育政策の転換などにより、私学を取り巻く状況が厳しさを増している現在、初芝立命館中学校高等学校（以下、本校という）は、生徒や保護者、地域・社会の要望に的確に応えた学校運営に努めてきました。

本校では２回の生徒による「授業評価アンケート」を実施し、授業改善に活かすとともに、さらに保護者の方々による「教育活動に関する保護者アンケート」自己評価アンケート」を実施しました。

以下、生徒による「授業評価アンケート」や保護者アンケートの結果と分析および日頃の取り組みなどを検証し、平成 24 年度の学校評価をまとめましたので報告します。

【１】平成 24 年度の概要

○　高校 1 年生は、立命館コース 142 人、グローバルコース S 56 人、グローバルコース A 112 人、体育科 42 人 の合計 352 人 計 10 クラスでスタートをしました。

入試改革の結果、初芝立命館の学校像が広く周知され、本校が求めるレベルにあった出願者が占める割合が高くなってきたことが特長です。

○　高校 1 年生は、初芝立命館中学校として入学してきた 1 期生を高校にはじめて迎える学年でした。各コースともに、入学当初からスムーズに友人関係を築き、互いに切磋琢磨する環境ができてきています。

○　中学校 1 年生は、立命館コース 53 人 グローバルコース 54 人 合計 107 人 4 クラスでのスタートとなりました。

私立中学校の生徒募集は、長びく不況の影響や高校での授業料無償化策の影響を受け、大阪府下の他の私立中学校もかなり厳しい状況になっています。このような中でも、本校は、一定の学力レベルでの選抜を行うという入試政策上の判断を維持してきました。

○　高校では、6 月に実施した体育祭は、生徒による企画運営体制をさらに強め、生徒の主体的な動きによる大会運営を果たしました。また、9 月に実施した陵風祭は、生徒の自主性を重視した新しい取り組みを行い、生徒たちの主体性を一歩進めた豊かな内容のものとなりました。特に、体育祭における高校 3 年生体育科の集団演技は、毎年恒例となり、自主的な中にも統率された一糸乱れぬ動きを披露し、初芝立命館の伝統として根づきつつあります。

○　中学校では、スポーツ･フェスティバルを秋に実施するとともに、冬には第 3 回となる合唱コンクールに取り組みました。特に 3 年生にとっては、後輩たちの見本となる合唱をつくりあげたクラスもあり、成長を感じる行事となりました。

○　中学校の立命館コースでは、サイエンス･プログラムとイングリッシュ･プログラムをさらに進め、中 1 では、ロボット講座や英語だけで過ごす 2 日間の English Immersion Camp を継続して行いました。

中 2 では、立命館大学の飛行機研究会の協力を得た紙飛行機で科学を体験するプログラムや、立命館アジア太平洋大学(APU)において各国・地域の留学生と直接交流をして英語力を磨く English Immersion Camp in APU を実施しました。

さらに中 3 では、秋のカナダ研修に向けて立命館アジア太平洋大学（APU）の留学生を招いた Camp を行い、十分に英語に自信をつけることによって、カナダでのホームステイをはじめとする多くのプログラムの中でさらに成長するなど、独自のプログラムを進めました。

○　高校の立命館コースでは、地球市民の時間においてキャリア教育を中心に高大連携の

取り組みを進めたり、また、体育科では、継続して立命館大学びわこ・くさつキャンパス（BKC）のスポーツ健康科学部の訪問･施設見学および最新のトレーニングに関する講義をいただいたりと、立命館の協力のもと、本校の教育の特色化をさらに進めました。

○　高校 3 年生の進路状況について、立命館コースでは、平成 24 年度は立命館大学および立命館アジア太平洋大学（APU）へ希望者のうちの 97%の生徒が進学をしました。グローバルコースでは、立命館大学をはじめ、生徒は、各自の目標を定めて進学を果たしました。

結果として、現役大学･短大合格率は 85.9%と高い合格率となりました。

○　中学校 3 年生の進路については、中高一貫校として基本的に全員が初芝立命館高等学校へ推薦で進学する制度のもと、丁寧な指導を繰り返し、より本人の適性と希望に応じた進路へ進める指導を行ないました。

【２】平成 24 年度の重点目標の達成状況

平成 24 年度の本校の重点目標は、(1) 中高一貫教育の体制を構築する、(2) 立命館コース生の立命館大学、立命館アジア太平洋大学(APU)への希望者全員の進学、(3) 大学等で学ぶ基礎学力と意欲を培う、(4) 高校において、普通科 2 コース・体育科が互いに切磋琢磨する、(5) 質の高い授業を提供する、の 5 点でした。 以下、それぞれの項目についての達成状況を評価しています。

(1) 中高一貫教育の体制を構築する

平成 24 年度は、前年度中 3 の担任教員が高 1 に持ち上がるなど、人事上の配置も含めて中高一貫体制の構築に向けた取り組みを進めました。しかし、中高で午後の授業時間帯が異なっていることもあり、十分に進められない課題も残しました。

平成 25 年度からは、中高の午後の授業時間帯を同一にすることになっており、引き続き教育内容も含め中高一貫教育の充実を図っていきます。

(2) 立命館コース生の立命館大学、立命館アジア太平洋大学(APU)への希望者全員の進学

立命館コース生(２期生)の内、立命館大学ないし立命館アジア太平洋大学への進学を希望した 132 人中、128 人 97%が立命館の設定した学力基準等をクリアして、両大学への進学を果たしました。

これは、希望者全員とはなりませんでしたが、希望者数が 1 期生より約 1.6 倍と増えた中で、進学率は 5 ポイント以上伸ばしており、大きな前進と言えるとともに、生徒たちの頑張りの結果だと考えます。

また、進路決定から大学入学までの期間の接続教育も重要な課題であり、立命館との協力のもと、その充実を図っていきます。

(3) 大学等で学ぶ基礎学力と意欲を培う

将来の社会人としての希望や目標を見据えた大学等での主体的で積極的な学びと成長を成し遂げられるように、確かな基礎学力の形成にとどまらず自律的な学習力や、自己管理力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力などの諸能力のいっそうの獲得が重要と考えています。

前述の【１】に記載の通り、この視点から、学校行事への生徒の主体的参加や、様々なプログラムの充実、キャリア教育の推進などを進めてきました。

今後は、キャリア教育の取り組みの中高全体への拡充など、学校生活のあらゆる場を通してこれらの諸能力を獲得できるように、教育活動のいっそうの改善と生徒たちへのサポートの充実を図っていきます。

(4) 高校において、普通科 2 コース・体育科が互いに切磋琢磨する

普通科立命館コース、普通科グローバルコース、そして体育科の生徒はそれぞれの科・コースの特性を理解、尊重しつつ、互いにそれぞれよい意味で競い合うという環境が醸成されてきています。

それは、例えば、普通科の生徒にあっては、体育祭における体育科の集団演技に対する鑑賞態度や称賛、また、クラブ活動における体育科生徒のリーダーシップに対する敬意といった形で表れています。逆に、体育科生徒も、自分たちの独自性に自負を持ちつつ、普通科生徒と行事運営などでは協力しあう姿が校内随所に見受けられるようになりました。

(5) 質の高い授業を提供する

すべての教員の授業力の向上を目指し、校内では年 2 回の「公開授業週間」を実施するとともに、大阪初芝学園全体の夏の教職員研修会でも「授業力向上」をテーマにして、各教科の分科会に立命館大学等から教科指導の専門家を招き、授業改善を目指すための研修を行ない、授業の質を高めるための取り組みを行ないました。

【３】保護者アンケートと改善状況

保護者アンケートは 19 の設問で行いました。その内、「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な評価の割合が、70%以上の項目は 7 項目でした。

とくに、本校が従来から大切にしてきている「 挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がされている」については、90%近い肯定的な評価をいただきました。

また、「わが子を入学させてよかったと思う」、「教職員は、生徒のことをよく考えて指導している」が 80%以上、「生徒同士がお互いを認め合い、豊かな心の育成ができている」、「部活動や生徒活動が活発に行われている」、「学校行事(文化祭・修学旅行など)は楽しく充実している」、「学校生活などの諸規程は、納得できるものになっている」が 70%以上の肯定的な評価をいただいています。これらは、生徒が伸び伸びとした学校生活を送っていることを表しているものと考えられます。この他の項目もほとんどが 60%以上の肯定的な評価を得ており、概ね本校の教育方針を理解していただいた上で、客観的な評価をいただいたものと認識しています。

今後、保護者アンケートを詳細に分析し、より高い満足度をいただけるように、取り組んでいきたいと考えます。

【４】平成 25 年度の重点目標

平成 25 年度に関しては、校長以下の執行部体制も一新して学校運営に臨むことになります。そのなかで、下記を重点目標として、取り組んでいきます。

① 授業、家庭学習を通じた基本知識の定着
② 学習や課外活動の時間管理能力の育成
③ 行事を通じての協調性やリーダーシップの育成
④ 異文化理解力、コミュニケーション能力の習得
⑤ 読書、新聞、小論文を活用した言語活用能力の向上

おわりに

平成 25 年度は、新体制のもと、心機一転、新しい学校づくりに取り組んでいきます。

特に、本校は、中高一貫教育を軸に、21 世紀のグローバル社会で活躍する学際的な素養と高い国際的な教養を身につけさせる、特色ある教育を展開することを使命とし、世界に貢献する次世代を育成していきます。

以 上

平成 24 年度　初芝立命館中学校・高等学校
学校関係者評価報告書

学校関係者評価委員会

１．はじめに

平成 25 年 5 月 9 日（木）、初芝立命館中学校・高等学校校長室にて学校関係者評価委員会が開催され、平成 24 年度の学校概要と学校評価の結果について説明があり、平成 25 年度の教育方針の説明が校長よりなされた。その中で、平成 24 年度の生徒数について、中学校、高等学校とも入学者数が減少しているとの報告があり、大阪府の私立高校無償化の影響があるとはいえ、入試政策上の課題、教育内容の広報などの点での課題が明確になってきた。その後、学校関係者評価委員による忌憚のない意見の交換がなされた。

２．平成 24 年度学校評価に関する意見・提言など

① 中学と高等学校があり、それぞれに立命館コースとグローバルコースを設置しているが、保護者には高等学校が主で中学校の教育が見えにくくなっている。また、グローバルコースの取り組みが立命館コースに比べてわかりにくい。バランスのとれた発信が必要である。

② 進学先は立命館大学だけではない。多様な進学先を考慮した、大学見学会などの行事を組む必要がある。グローバルコースのアピール度を高めるための教育内容の構築が必要ではないか。

③ 過去 2 年間で立命館大学への進学率は高まっているが、立命館大学に入学できればそれで幸福なわけではない。大学に入れば新たな試練が待っている。中学高校時代に何が学べたのかという学びに実感を持たせてほしい。中学生高校生には、自分の将来を見据えて基礎学力をつけるだけでなく、各種実力テストやコンペ競技に参加し、そこから高いレベルの人間力を構築してほしい。

④ 学校のある登美丘地区を教育・文化の町にしたい。地域の人から入学させたい学校になってほしい。公立に負けない、たくましい生徒を、私学の特色を生かして育ててほしい。教育方針が明確なので保護者からの種々の意見があるが学校は自信を持って臨んでいただければよい。

⑤ 大学生を見ていると、教育が必要な学生がいる。孤立感が強い学生、一人暮らしでケアが必要な学生など。自己省察の力が弱く自分の未来を考える力がない学生がいる。そういう点では在学中にケアをしておく必要がある。

３．学校関係者評価委員会出席者　７名

中学校・高等学校保護者会役員
東区自治連合協議会会長
立命館大学教授
校長
副校長
教頭
立命館コース主幹